

MOVE THE WORLD FORWARD

MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

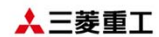


2019年度第3四半期 決算説明資料

2020年2月6日

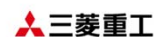
三菱重工業株式会社

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



CFOの小口です。2019年度第3四半期決算の概要について説明します。

目次



I. 2019年度第3四半期

決算実績

・ハイライト	3
・連結経営成績サマリー	4
・定常収益	5
・セグメント別内訳	6
・連結財政状態	7
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	8

セグメント情報

・受注高・受注残高	9
・売上収益	10
・事業利益	11

II. 2019年度業績見通し

・業績見通しサマリー	13
・定常収益	14
・セグメント別内訳	15

III. 補足説明

・SpaceJetの会計処理	17
・バランスシートの効率化	18

IV. 補足資料

19-23

当社は2019年度から国際会計基準(IFRS16号)を適用しています。
有価証券報告書及び決算短信については、IFRS16号の遡及適用により2018年度の財務数値を修正表示しているため、本資料とは一部数値が異なります。
(本資料では過去の数値との比較を容易にするため、2018年度数値の見直しは行っておりません。)

I . 2019年度第3四半期決算実績

2019年度第3四半期決算実績 ハイライト



<決算トピックス: SpaceJet関連>

- SpaceJetの量産初号機の引き渡し予定時期は2021年度以降となる見通し。
- 第3四半期累計で、過年度資産計上額(減損)及び当期損失額の合計△1,753億円を事業損失に、33億円を当期利益(親会社の所有者に帰属する四半期利益)に計上した。
- 当期利益については、過年度損失累計額及び当期損失計上額に対する繰延税金資産(1,780億円)を計上した。
→ P4(連結経営成績サマリー)、P5(定常収益)、P6(セグメント別内訳)
- 通期では、事業損失△2,700億円、当期損失△600億円となる見通し。
→ P14(定常収益業績見通し)

<今期実績及び通期見通し>

- 受注高は、パワードメイン(火力)の増加により、前年同期を上回った。
- 売上収益及び定常収益(SpaceJetを除く)は概ね前年同期並み。
- 通期見通しは、米中貿易摩擦等の市況悪化による影響を反映し、インダストリー&社会基盤ドメインを下方修正。
→ P13(業績見通しサマリー)、P14(定常収益)、P15(セグメント別内訳)
- 南ア和解によるB/S、P/L、C/Fへの影響の一部は第4四半期以降に反映予定。
- 年間配当は前年度比20円増配の150円の予定(期首計画から変更なし)。
→ P13(業績見通しサマリー)

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

今回の決算のハイライトとして、まずSpaceJetについて説明します。

2020年度に予定していたTCの取得並びに量産初号機の納入が、2021年度以降となる見通しとなりました。

SpaceJetの開発状況や様々な観点からの評価をもとに、当第3四半期において、過年度の累計資産計上額(減損)並びに当期の損失額とを合わせて、1,753億円を事業損失に計上しました。

なお、過年度に計上した累計損失額並びに当期の損失計上額に対する繰延税金資産1,780億円を計上した結果、親会社の所有者に帰属する四半期利益(当期利益)は33億円となりました。

通期の見通しに関しては、第4四半期に予定されている減損と損失計上を合わせて、事業損失△2,700億円、当期損失△600億円となる予定です。

続いて、第3四半期までの経営状況について説明します。

まず、受注高は、パワードメインが増加したことにより、前年度を上回りました。

売上収益及び定常収益(SpaceJetを除く)は、概ね前年同期並みで推移しています。通期見通しについては、米中貿易摩擦等の影響が中量産品、特にターボチャージャで大きく出ていることなどを踏まえ、インダストリー&社会基盤ドメインにおいて、受注高、売上収益、事業利益とも下方修正しました。

なお、南ア和解によるB/S、P/L、C/Fへの影響は、当第3四半期に加え、一部は第4四半期以降に反映される予定です。

配当については、期首計画どおり、前年度比20円増配の150円/株の予定です。

第3四半期決算実績 連結経営成績サマリー



(単位: 億円)

	2018年度3Q累計 (利益率)	2019年度3Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受注高	24,793	26,534	+1,741 (+7.0%)
売上収益	28,992	28,565	△ 427 (△1.5%)
事業利益	(3.6%) 1,053	(0.4%) 127	△ 925 (△87.9%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	(1.2%) 353	(3.5%) 1,014	+660 (+186.8%)
EBITDA	(6.9%) 2,007	(4.0%) 1,156	△ 850 (△42.4%)
フリーCF	△1,544	△3,231	△1,687 -

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

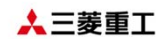
受注高は2兆6,534億円で前年度から1,741億円増加、売上収益は2兆8,565億円で、427億円の減少となりました。

事業利益については、SpaceJetの損失を含めると127億円となり、前年度比では925億円の減少です。

なお、当期利益は、SpaceJet関連の繰延税金資産を計上したことにより、税金費用が大きく減少した結果、前年度比660億円増加の1,014億円となりました。

EBITDA、フリーキャッシュフローはご覧のとおりです。

第3四半期決算実績 定常収益



(単位: 億円)

2019年度3Q累計	定常収益 (利益率)	SpaceJet 投資	合計 (利益率)
受注高	26,534	—	26,534
売上収益	28,565	—	28,565
事業利益	(6.6%) 1,881	△1,753	(0.4%) 127
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	(3.4%) 980	33	(3.5%) 1,014
EBITDA	(10.2%) 2,903	△1,746	(4.0%) 1,156
フリーCF	△2,255	△975	△3,231

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

SpaceJet事業の影響を除いた定常収益に関しては、事業利益は1,881億円で概ね前年同期並みです。当期利益については、980億円、EBITDAは2,903億円であり、比較的安定感のある経営成績だと評価しています。

フリーキャッシュフローは△2,255億円ということで、前年度同期から悪化していますが、概ね期首計画どおりに推移しています。

第3四半期決算実績 連結経営成績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計	増減	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計	増減	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計	増減
パワー	7,565	11,041	+3,476	10,612	10,753	+141	793	1,056	+263
インダストリー & 社会基盤	13,681	12,595	△ 1,085	13,718	13,128	△ 590	534	396	△ 137
航空・防衛・宇宙	3,815	3,227	△ 587	4,881	4,931	+49	△ 319	△ 1,302	△ 982
その他	530	515	△ 15	519	506	△ 13	64	100	+35
消去または共通	△ 799	△ 845	△ 46	△ 739	△ 754	△ 15	△ 19	△ 122	△ 102
合計	24,793	26,534	+1,741	28,992	28,565	△ 427	1,053	127	△ 925

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

セグメント別の内訳について説明します。受注高は、パワー部門において、前年度から繰り越した大型案件及び比較的堅調なガスタービンが寄与し、前年度同期比3,476億円増加の1兆1,041億円となりました。

インダストリー & 社会基盤は、1兆2,595億円ということで約1,000億円減少していますが、これはエンジニアリング関連の大型案件の受注が後ろにずれていることに加えて、中量産品が苦戦をしていることを反映しています。

航空・防衛・宇宙は前年同期を下回る3,227億円ですが、通期では挽回できる見通しです。

続いて売上収益ですが、インダストリー & 社会基盤において、主に中量産品の売上減少が響き1兆3,128億円に留まりましたが、パワー及び航空・防衛・宇宙については概ね前年同期並みとなりました。

事業利益については、インダストリー & 社会基盤が売上の減少により、航空・防衛・宇宙がSpaceJet関連の損失計上により悪化しています。パワーは、Trent1000のトラブル対応費用に関する引当を実施しましたが増益となりました。

第3四半期決算実績 連結財政状態



(単位: 億円)			
	‘18年度末	‘19年度3Q末	対前年度末 増減
売上債権(営業債権、契約資産)	13,431	13,618	+186
棚卸資産	7,392	8,184	+791
その他流動資産	10,769	11,577	+807
固定資産	10,137	10,085	△52
投資等	9,696	12,005	+2,309
資産合計	51,427	55,471	+4,043
営業債務	8,621	7,787	△834
契約負債	8,752	8,433	△319
その他	9,913	15,206	+5,292
有利子負債	6,651	10,140	+3,489
資本	17,488	13,903	△3,584
(うち親会社の所有者に帰属する持分)	(14,308)	(13,171)	(△1,136)
負債・資本合計	51,427	55,471	+4,043

借入金 △211
コマーシャルペーパー +4,350
社債 △650

配当 △470
四半期利益 +1,014
その他の包括利益 △1,680

(‘19年度3Q末の資産、負債にはIFRS16号の影響(+976億円)を含む)

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

7

B/Sは当社が掲げる経営指標トリプルワンプロポーション(総資産:売上:時価総額=1:1:1)の基軸であり、従来から効率化に努めてきました。

特に流動資産の効率化が進んでおり、例えば営業債務(いわゆる買掛金)と契約負債(いわゆる前受金)の合計額約1兆6,000億円で、8,184億円の棚卸資産を賄っており、ほぼ投下資金ゼロの状態で経営をしていると言えます(かつては棚卸資産の額と営業債務+契約負債が同程度の金額でした)。

売上債権を確実に回収することによって、有利子負債の圧縮が進んでいますが、今後はアセットマネジメントを中心に固定資産の効率化にも取り組んでいきます。

なお、前年度末のB/Sと比較すると、総資産が4,000億円ほど増加していますが、棚卸資産の積み上がりなどにより、通常第3四半期末に総資産が増加する傾向にあります。また、今年度特有の事象としてIFRS16号の影響、すなわちリース資産のオンバランス化により、固定資産が約1,000億円増加していることに加えて、南ア和解の影響の一部が第4四半期以降に反映されることも一因です。

有利子負債については1兆140億円ということで、前年度末比で3,489億円増加していますが、キャッシュフローが計画通りに推移していることを鑑みて、今年度末時点では6,000億円程度まで圧縮できる見通しです。

第3四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	‘18年度末	‘19年度 3Q末	対前年度末 増減	‘19年度 見通し
自己資本比率	27.8%	23.7%	△ 4.1pt	－
有利子負債残高 (単位:億円)	6,651	10,140	+3,489	6,000
D/Eレシオ	0.38	0.73	+0.35	0.4

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	‘18年度 3Q累計	‘19年度 3Q累計	増減	‘19年度 見通し
営業CF	△ 307	△ 1,371	△ 1,064	－
投資CF	△ 1,237	△ 1,860	△ 623	－
フリーCF	△ 1,544	△ 3,231	△ 1,687	1,000

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

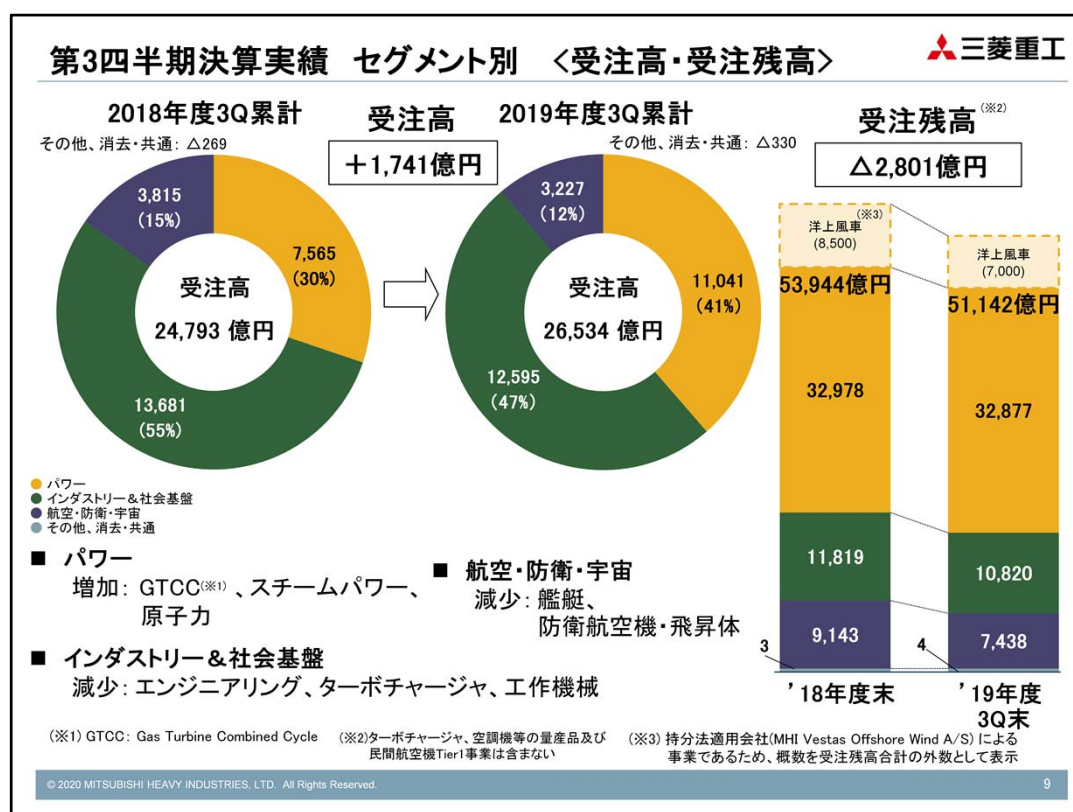
8

南ア和解の処理が第3四半期末時点では完了していないことなどから、総資産が膨れる一方で自己資本が減少しており、一時的に自己資本比率が23.7%と低下していますが、MHPS株式の譲受を含む一連の取引が完了した際には、25～26%まで戻る予定です。

また、今般、SpaceJet関連の資産を減損処理しましたが、これによる自己資本への影響は軽微です。

有利子負債の年度見通しは6,000億円であり、デットエクイティレシオはご覧の通りです。

営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、フリーキャッシュフローの状況はご覧の通りですが、通期のフリーキャッシュフロー見通しを500億円から1,000億円に上方修正しました。



受注はパワーがガスタービン、スチームパワー、原子力で増加しました。

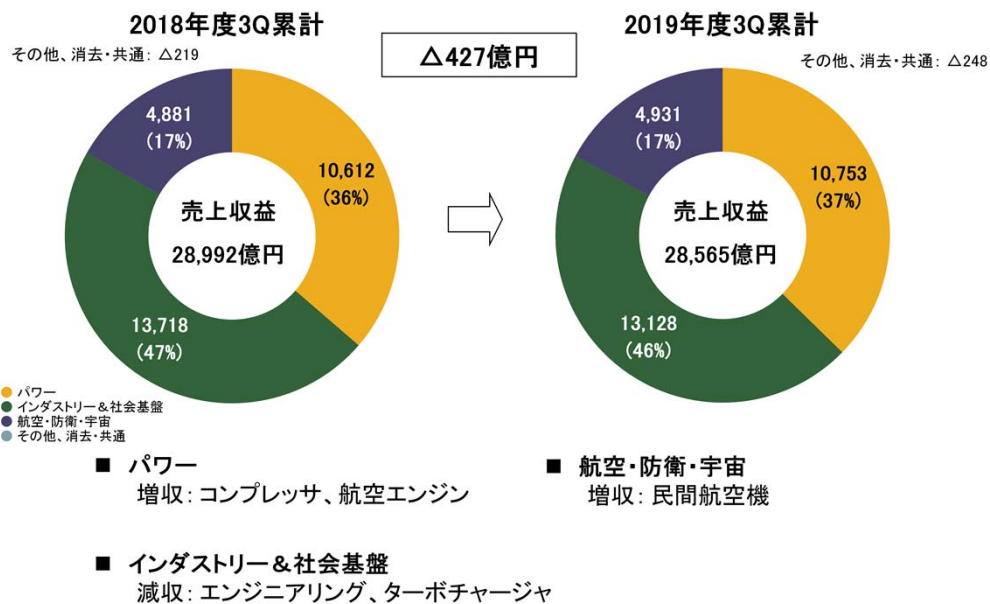
インダストリー&社会基盤についてはエンジニアリング事業において大型案件の受注が後ろにずれていることや、ターボチャージャや工作機械等の自動車関連事業で苦戦していることを反映しております。

航空・防衛・宇宙は、艦艇、防衛航空機・飛昇体とも減少していますが、通期見通しは達成できると認識しています。

続いて受注残高に関しては、2,800億円ほど減少していますが、今年度末に向けて受注を積み上げていきたいと考えています。

なお、洋上風車事業を手掛けているMHI Vestas Offshore Windは持分法適用会社のため、外数として参考表示していますが、これも合わせると受注残高は5兆8,000億円程度となります。

第3四半期決算実績 セグメント別 <売上収益>



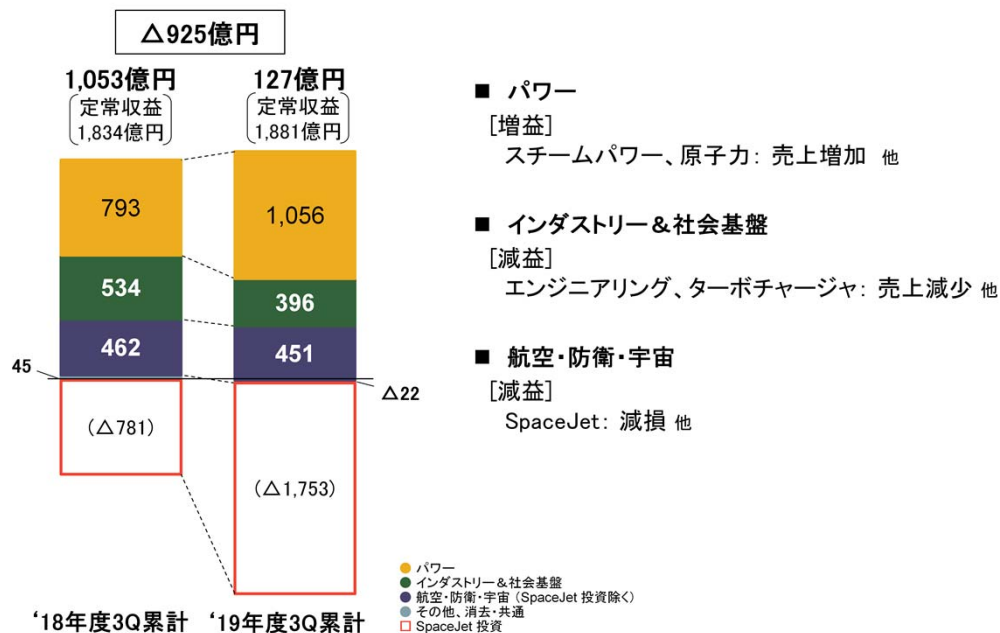
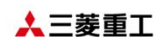
© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

10

売上の状況ですが、パワーはコンプレッサ、航空エンジンが増加し全体では微増、インダストリー&社会基盤は、中量産品を中心に減少しています。

航空・防衛・宇宙については民間航空機が増加しています。Boeing737MAXにおける当社の担当シェアは非常に限定的であることから、当社の民間航空機事業に与える影響は軽微です。

第3四半期決算実績 セグメント別 <事業利益>



© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

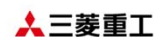
11

事業利益については、SpaceJetの減損等で大きく減少していますが、その他の事業については、インダストリー&社会基盤の減益をパワーの増益でカバーし、概ね前年同期並みとなりました。

Ⅱ．2019年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しの上に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2019年度業績見通し サマリー



SpaceJetの会計処理影響や市況の悪化等を踏まえ、期首公表値から見直し

(単位: 億円)

	2018年度実績 (利益率)	2019年度		対前年度増減 (増減率)
		今回見通し (利益率)	期首見通し (2019年5月9日)	
受 注 高	38,534	40,500	43,000	+1,965 (+5.1%)
売上収益	40,783	41,500	43,000	+716 (+1.8%)
事業利益	(4.6%) 1,867	(0.0%) 0	2,200	△ 1,867 (△100.0%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(2.5%) 1,013	(2.4%) 1,000	1,100	△ 13 (△1.3%)
R O E	7.2%	7%	8%	-
EBITDA	(7.6%) 3,116	(3.1%) 1,300	3,500	△ 1,816 (△58.3%)
フリーCF	2,430	1,000	500	△ 1,430 -
配当	130円 (中間65円/期末65円)	150円 (中間75円/期末75円)		

【未確定外貨】
16億ドル
6億ユーロ

【前提為替レート】
1ドル = 110円
1ユーロ = 120円

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

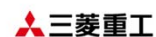
今年度見通しについては、受注高はパワーで増加を見込むものの、インダストリー&社会基盤の大型案件の期ずれ及び中量製品の苦戦を反映し、4兆3,000億円から4兆500億円に下方修正しましたが、前年度から約2,000億円の増加となります。

売上収益は中量製品の減少等を考慮し、4兆3,000億円から4兆1,500億円に下方修正しました。

事業利益は当初2,200億円を予定していましたが、SpaceJetに係る減損及び追加費用の計上を反映し0に、当期利益については100億円減少の1,000億円としました。

フリーキャッシュフローは500億円から1,000億円に上方修正、配当については年間で20円増配の150円を維持したいと考えています。

2019年度業績見通し 定常収益



(単位: 億円)

2019年度見通し	定常収益		SpaceJet投資		合計
	(利益率)		今回見通し	期首見通し (2019年5月9日)	(利益率)
受注高		40,500	—	—	40,500
売上収益		41,500	—	—	41,500
事業利益	(6.5%)	2,700	△ 2,700	△ 800	(0.0%) 0
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(3.9%)	1,600	△ 600	△ 800	(2.4%) 1,000
ROE		8%	—	—	7%
EBITDA	(9.6%)	4,000	△ 2,700	△ 800	(3.1%) 1,300
フリーCF		2,400	△ 1,400	△ 1,000	1,000

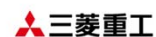
- 定常収益におけるTOP^(※1)比… 0.8 : 1 : 0.5
(売上…4.2兆円、総資産…5.5兆円、時価総額…2.7兆円^(※2))

(※1) TOP: Triple One Proportion(売上:総資産:時価総額=1:1:1とする経営目標)

(※2) 時価総額は親会社の所有者に帰属する当期利益の16.7倍(資本コスト:6%)として算定

SpaceJetについては、補足説明資料17ページも併せてご参照ください。

2019年度業績見通し セグメント別内訳



インダストリー＆社会基盤及び航空・防衛・宇宙ドメインを中心に見直し

(単位: 億円)

	受 注 高				売上収益				事業利益			
	'18年度 実績	'19年度 今回 見通し	'19年度 期首見通し (5月9日)	対前年度 増減	'18年度 実績	'19年度 今回 見通し	'19年度 期首見通し (5月9日)	対前年度 増減	'18年度 実績	'19年度 今回 見通し	'19年度 期首見通し (5月9日)	対前年度 増減
パワー	14,265	16,000	16,000	+1,734	15,251	16,500	16,500	+1,248	1,328	1,600	1,400	+271
インダストリー＆ 社会基盤	18,520	18,000	20,000	△ 520	19,078	18,000	19,500	△ 1,078	701	600	1,100	△ 101
航空・防衛・宇宙	6,106	7,000	7,000	+893	6,775	7,000	7,000	+224	△ 374	△ 2,100	△ 200	△ 1,726
その他	733	500	1,000	△ 233	716	700	700	△ 16	359	50	50	△ 309
消去または共通	△ 1,091	△ 1,000	△ 1,000	+91	△ 1,038	△ 700	△ 700	+338	△ 148	△ 150	△ 150	△ 1
合計	38,534	40,500	43,000	+1,965	40,783	41,500	43,000	+716	1,867	0	2,200	△ 1,867

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

15

セグメント別の通期見通しについては、パワーにおいて事業利益を1,400億円から1,600億円に200億円上方修正しました。

インダストリー＆社会基盤は受注、売上収益、事業利益ともに期首計画を下方修正しました。

航空・防衛・宇宙に関しては、SpaceJet関連の損失を計上したため期首計画値を大きく下回る見通しとなりました。

Ⅲ．補足説明

SpaceJetの会計処理



(単位: 億円)

	2019年度3Q累計 (利益率)	2019年度見通し (利益率)
売上収益	28,565	41,500
定常収益	28,565	41,500
SpaceJet	-	-
事業利益	(0.4%) 127	(0.0%) 0
定常収益	(6.6%) 1,881	(6.5%) 2,700
SpaceJet ^(※)	(-) △ 1,753	(-) △ 2,700
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(3.5%) 1,014	(2.4%) 1,000
定常収益	(3.4%) 980	(3.9%) 1,600
SpaceJet ^(※)	(-) 33	(-) △ 600

(※) SpaceJet 3Q決算

事業利益

- ・当期発生額: △975億円
- ・過去計上済資産の減損: △778億円
(リスク資産の圧縮・整理を促進)

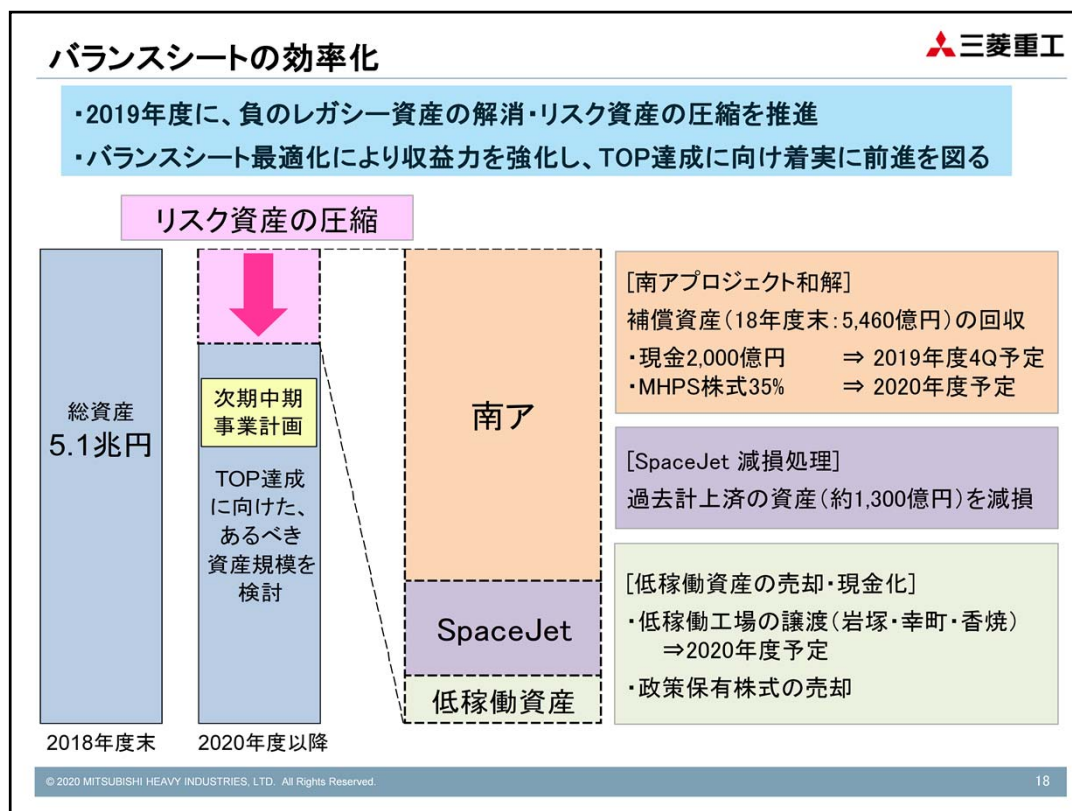
当期利益

- ・税引前利益: △1,754億円
- ・計上済損失に関わる繰延税金資産の計上: +1,780億円

第3四半期累計で計上したSpaceJetに係る事業損失1,753億円には、当期発生額975億円と過去計上済資産の減損778億円が含まれます。

元々、今年度のキャッシュアウト見通しが1,000億円、当期事業損失が800億円、その差額の200億円を資産計上する予定でしたが、今般、発生費用(キャッシュアウト)を全て損失に計上したほか、昨年度までに計上した資産の減損を行った結果、1,753億円の事業損失となりました。なお、過年度に計上した累計損失額並びに当期の損失計上額に対する繰延税金資産を1,780億円計上した結果、SpaceJet事業に係る当期利益は33億円となりました。

年度見通しについては事業利益が△2,700億円、当期利益が△600億円の予定です。



最後に、当社が目指す姿であるTOPの基盤となるB/Sの効率化に関して説明します。まず、キャッシュ・コンバージョン・サイクルの推移等から、流動資産サイドは顕著に改善していることが窺えます。

一方、当社のB/Sには、南アプロジェクトに関する日立製作所(株)への請求権約5,500億円やSpaceJetに関わる資産のほか、稼働率の低い工場といったリスク資産が含まれていましたが、今般の南ア和解とSpaceJet関連資産の減損により、相当程度圧縮することができます。さらに、低稼働工場の譲渡・流動化、政策保有株式の売却等を進めることでより一層B/Sの効率化を図っていきます。

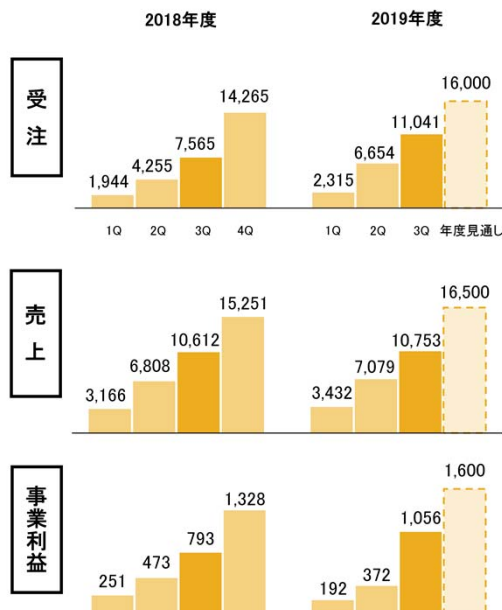
以上で2019年度第3四半期決算の説明を終わりにします。

IV . 補足資料

補足資料① 第3四半期決算実績 <パワー>



(億円、各期の数値は累計)



受注: 対前年同期+3,476億円の増加
増加… GTCC、スチームパワー、原子力

【ガスタービン受注台数】

2018年度3Q累計 : 14台

	米州	アジア	EMEA(※1)	その他	合計
大型	1	4	-	-	5
中小型	6	3	-	-	9
合計	7	7	0	0	14

2019年度3Q累計 : 15台

	米州	アジア	EMEA(※1)	その他	合計
大型	4	4	2(※2)	-	10
中小型	3	2	-	-	5
合計	7	6	2	0	15

【ガスタービン契約残台数】

(※1) 欧州、中東、アフリカ

	大型	中小型	合計
2018年度3Q末	37	8	45
2018年度末	44	15	59
2019年度3Q末	40	12	52

(※2) 第2四半期から、H100形ガスタービンの区分を中小型から大型に変更

売上: 対前年同期+141億円の増収
増収…コンプレッサ、航空エンジン

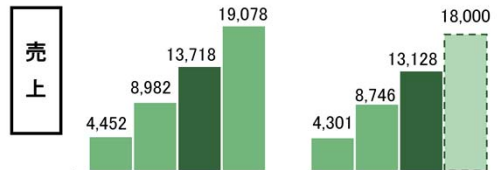
損益: 対前年同期+ 263億円の増益
増益…スチームパワー、原子力: 売上増加 他

補足資料① 第3四半期決算実績 <インダストリー & 社会基盤> 三菱重工

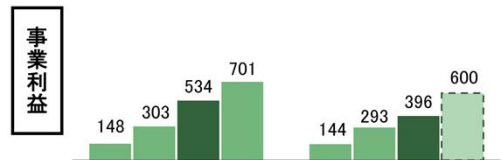
(億円、各期の数値は累計)



受注: 対前年同期△1,085億円の減少
減少…エンジニアリング、ターボチャージャ、工作機械



売上: 対前年同期△590億円の減収
減収…エンジニアリング、ターボチャージャ



損益: 対前年同期△137億円の減益
減益…エンジニアリング、ターボチャージャ: 売上減少 他

補足資料① 第3四半期決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(億円、各期の数値は累計)

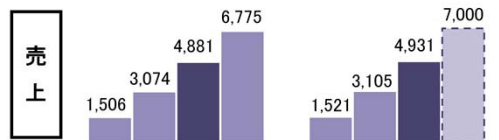


受注: 対前年同期△587億円の減少

減少…艦艇、防衛航空機・飛昇体

【SpaceJet 累計受注機数】(2020年2月6日現在)

287機 (確定 163機、オプションおよび購入権 124機)



売上: 対前年同期+49億円の増収

増収…民間航空機

【B777/B777X 引渡機数】

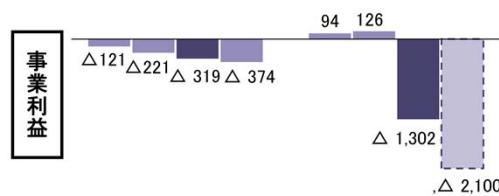
'18年度(実績) : 48機 (1Q:11機、2Q:11機、3Q:11機、4Q:15機)

'19年度(見通し) : 55機 (1Q:16機、2Q:14機、3Q:13機、4Q:12機[予定])

【B787 引渡機数】

'18年度(実績) : 148機 (1Q:37機、2Q:36機、3Q:33機、4Q:42機)

'19年度(見通し) : 167機 (1Q:43機、2Q:42機、3Q:38機、4Q:44機[予定])



損益: 対前年同期△982億円の減益

減益…SpaceJet: 減損 他

補足資料② 参考データ



1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位: 億円)

	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計	'19年度 見通し
研究開発費	976	953	1,600
減価償却費	953	1,029	1,300
設備投資	891	1,151	1,700

2. 販売費及び一般管理費

(単位: 億円)

	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計
販管費	3,935	4,273

3. 為替レート(売上計上平均レート)

	'18年度 3Q累計	'19年度 3Q累計
USドル(円/USドル)	110.7	109.1
ユーロ(円/ユーロ)	129.4	121.4

4. 海外地域別売上収益

(単位: 億円)

	'18年度3Q累計	'19年度3Q累計
アジア	5,433 (19%)	5,255 (19%)
北米	4,741 (16%)	5,233 (18%)
欧州	3,015 (10%)	2,644 (9%)
中南米	1,006 (3%)	954 (3%)
中東	952 (3%)	654 (2%)
オセアニア	199 (1%)	170 (1%)
アフリカ	721 (3%)	420 (2%)
合計	16,070 (55%)	15,334 (54%)

※ ()内は構成比

MOVE THE WORLD FORWARD

**mitsubishi
heavy
industries
group**

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.